

カトリック六甲教会 教会報

2010

9

No.465



“今を大切に生きる”

主任司祭 松村 信也

子どもたちと出会っていつも驚かされるのは、純真さ、素朴さ、敏感さ、そして直感の鋭さです。それらをどの子どもみんな持っているのです。ということは私たち大人にも遠い過去にあったのです。

ところがどうして今、それらは特定の人あるいは一部の人にしかないのでしょうか。多くの人からは、どうしてそれらが失われてしまった、否、忘れ去られてしまったのでしょうか。あまり使うことがないから自然に無くなってしまった、忙しいから忘れ去られてしまったのでしょうか。

その理由をよく調べてみると、すべての事柄に対して素直な心で関わること、感動、感激することに鈍感になってしまったこと、そして、すべてが当たり前のこととして開き直ってしまったからです。しかし、この世に起こるすべての出来事を丁寧に観るとき、すべて“当たり前”のようなことは何一つないことに気づかされるのです。ところが私たちは、この世の価値観に振り回され、すべての出来事に対して“当たり前”と考えざるを得なくなってしまったのです。

その原因として考えられるのは、忙しいから、またいちいち確認する程の必要性もないし時間の無駄、面倒、自分にとって利益にならないし、他人のことなど考えていたら負け組になってしまうからといった考え方が優先しているからなのです。つまり、個人主義、エゴ、自分さえよければそれでよしとする価値観に汚染されつつあるのです。

“当たり前”のこと、それで良いのでしょうか。「純粹で素朴な心を、感激、感動する感性を呼び戻そう！」「あの時、あの頃のあなたを」と神様は、子どもたちを通して、心身ともに疲れている大人たちに向けて呼びかけています。「大人たちよ！もっと大切なものに心を向けなさい！もっと素直な自分になりなさい！」と。

今に生きる子どもたち。今を生かし、今しかできないことを、今しか聞けないことを、今しか見ないことをよく知っています。それを大人に尋ねたい、知りたい、話して欲しいと大人たちに関わってくるのです。その呼びかけにあなたは、答えていますか？子どもたちを通して働かれる神の声に、あなたは耳を傾けていますか？あなたは大切なことを忘れていませんか？

もっと広い心になって「人のための自分になりませんか」。そうすることによって、みんな一緒に歩むことが出来るし、自分もみんなも“今を大切に生きる”ことが出来るようになるのではないのでしょうか。



(最終回) キリストの愛のしるしである目に見える証（叙階の秘跡）

父が聖霊によって世に派遣したキリストは、その使徒たちを通して、彼らの後継者すなわち司教たちを、ご自分の聖別と派遣とに参与する者とした。その司教が自分の奉仕の任務を教会共同体の中で具体的な種々の役務と段階に分けて授けた。こうした種々の教会位階制度の中で、古代から団体制に基づく三つの位階「司教・司祭・助祭」は、神の制定による教会の役務を秘跡として委ねられてきた。

旧約聖書を見ると、祭司たちは民の一致のために神と人との仲介者として描かれており、その為に特別に聖別された人であった。その具体的な使命は、特に神と人との和解のための“いけにえ”を捧げることであった。

イエスの時代、新約聖書では、イエス・キリストは唯一の大祭司として、自らを“いけにえ”として捧げた。これによって神と人との和解は、完全に成就したのである。したがって、神と人との仲介者は、今も復活されたイエス・キリストだけである。

イエスの選んだ弟子たち、彼らは後に教会の礎となり「使徒」と呼ばれるようになる。「使徒」とは“み言葉の宣教者”であり、“共同体の指導者”である。その権威は神から授けられたものであり、イエスの復活の後、使徒的使命が次の世代に委託されていくのである。その委託の連鎖を保証するものは、「聖霊」である。

イエスの復活後の教会指導体制は、そのはじめから監督（司教）、長老（司祭）、執事（助祭）であり、彼らの任命には“按手”によって行われる。按手とは、聖霊の働きを願う行為のことであって、それによって神の賜物であるカリスマ、それも役務の賜物を授かるのである。それは洗礼の時と同様、一回限りのものである。

したがって、すべての聖職者の任務の泉は、叙階の秘跡である。イエス・キリストは新しい永遠の祭司となられ、本当の“いけにえ”は、自らすべてを神に捧げることであり、人々への奉仕者となることである。

叙階の秘跡

神の制定による叙階の秘跡によってキリスト信者の中のある者は、消えない霊印で刻印され、聖務者とされます。すなわちその者は、各々その叙階に応じて“かしら”であるキリストの位格において、教える任務、聖化する任務及び統治する任務を果たし、かつ神の民を牧するよう聖別され任命されます。



主任司祭 松村信也



みんなの広場

家

家があった。父親がいて、お袋や家族がいて、それぞれ好き勝手なことをし、言いたいことを言い合う。夫婦喧嘩、親子喧嘩、兄弟喧嘩は日常茶飯事。メシ時には皆集まる。

小教区の教会も信徒には自分の家。

(ヨハネ)

ペトロ・カスイ岐部の故郷訪問

今月初旬、縁あって念願の地を訪問することが出来た。2008年11月23日長崎にて列福された一人ペトロ・カスイ岐部の故郷、大分県国東半島にある国見町である。

大分空港から半島沿いに車で約四十数分走った場所にペトロ岐部公園がある。そこには、小さな教会建物、国見ふるさと展示館、そしてローマの方角を見据えて立つペトロ・カスイ岐部の凛々しいブロンズ像がある。如何に彼が列福されるに至る人物であったか、そのことに少し触れてみたい。

1587年頃、豊後の国・国東半島のキリシタン篤信家族に生まれ、幼い頃から家族の温かい信仰雰囲気の中で育った。皮肉なことに彼の生まれたその年は、折しも折、豊臣秀吉が伴天連追放令を出したその年であったと伝えられている。彼の生涯はまさに、御禁制宗教キリスト教の一員として生きる運命にあった。ペトロ岐部は幼いながらも1597年、長崎西坂における二十六聖人の殉教についても聞き知っていたであろう。そして、数年後の有馬セミナリオに入学したペトロ岐部は、司祭への大きな憧れを強く持ち、一日も早い司祭叙階を夢見ていた。しかし、言葉の問題（ラテン語）から来る日本人への評価で彼も他の人同様、日本で、マカオで、インドのゴアでも認められず、司祭のための準備教育を受けることが出来なかった。そこで彼は思い切った行動にでた。ゴアから砂漠を通過して陸路からローマに入る計画をした。現代でさえ厳しい砂漠の横断、さらに困難なイスラム教徒の地を通り抜けるのである。



彼はローマまでの旅について、誰にも一切話していないことから想像を絶するものであったことが伺える。どんな過酷なものであったにせよ、彼にとってローマに到着する目的以外、何も価値の無いものであった。ところがローマに到着したペトロ岐部は、評価されなかった日本人であるにもかかわらず、

予想に反して大歓迎を受ける。そして、数年後には全くの異例として、ラテラン聖堂で司祭叙階されたが、はじめの頃、全く彼を良しとした者達ばかりではなく、彼を厳しく差別した人は沢山いた。そこでイエズス会は彼を会に入会させ叙階させたのである。

ローマ在住の時、彼は日本ではキリスト者が大勢迫害を受けていることを知った。その後、1625年、再びアジア・マカオへ戻り、そこから日本の薩摩・坊津に上陸した。厳しい迫害の中、彼は潜伏しながら信者を助け、また布教に努めていたが、仙台藩で捕らえられ、1639年52歳の若さで江戸にて殉教した。

ペトロ・カスイ岐部、彼の並々ならぬ強い意思とキリストへの限りない愛・己の命をも賭けた生き方は、現代人に「目に見えない永遠の真理」の素晴らしさを彷彿させる。

殉教者たちの残した現代人へのメッセージ、その根幹は今、多くの人々から忘れ去られている「信仰、希望、愛」である。

今回の巡礼の旅、それはもう一度“原点に戻って生き直す”ことについて考えさせられた旅であった。神に感謝！

(キリシタンの足跡を訪ねる旅人)





<行事報告>

∞∞∞∞∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ **侍者会（侍者の勉強会）を行いました** ∞∞∞∞∞∞

7月31日(土)、今年4月に初聖体を受けた小学生を対象に侍者会を行いました。初聖体の後、子供たちから侍者会の開催を催促されて、私たちリーダーが「うれしい悲鳴」をあげての開催でした。

勉強した内容は、侍者としての立つ姿勢、お辞儀の仕方、座っている時の姿勢から始まり、香部屋で注意することと、ミサの聖具の名称を覚えました。子供たちの吸収力には驚かされます。そして、聖堂で侍者の動きを実践。この時、侍者の動きを覚えるために、すでに侍者をしている4人の先輩侍者が参加して、手助けしてくれました。この先輩侍者たちも、侍者会で初めて侍者の勉強をした頃から大きく成長して侍者会を手伝ってくれるまでになり、とても頼もしく感じます。

侍者会の締めくくりに、子供たちにどんな侍者になりたいか、気をつけたいことなどを書いてもらったところ、「姿勢のよい侍者になりたい。」「何も手に持っていない時は必ず手を合わせるようにする。」「侍者服を着るのが楽しみです。」「自分が侍者の練習をする番の時、ドキドキしました。」と、それぞれの意気込みが感じられました。

侍者の役目を担う子供たちが、経験を重ねる中で学び、そして互いに奉仕する人に成長していきますようご一緒にお祈りください。



<行事報告>

∞∞∞∞∞∞ **2010年度 夏の広島練成会** ∞∞∞∞∞∞

今年の夏、六甲教会中高生会は広島におられるシスター佐藤から声をかけていただき、初めて2泊3日で広島司教区の練成会に参加してきました。この練成会はカトリック広島司教区青少年情報センター主催で広島や岡山のカトリック教会の小学校5年生から中学校3年生までの子供たち約25名が参加したイベントです。楽しく親睦を深めるプログラムもありましたが、主に広島司教区の様々な平和行事に参加することが活動の中心でした。

初日は少し戦争や原爆の恐ろしさについての事前勉強をし、2日目から実際に平和行事に参加しました。被爆者の方のお話や、製作をしながら平和について考えたり、千羽鶴のお話を聞いたり、平和記念公園から平和記念聖堂まで大勢で歌いながら平和行進をしたり、平和祈願ミサに参加しました。様々な活動を通して私が感じたことは、今の広島を知ることができたという思いでした。私は今までに5回以上は広島を訪れたことがありますが、その度に私が得ていたものは過去の広島に起こった悲惨な出来事の知識でした。その知識を得て『自分に何ができるか』や『平和とは何か』を考えることが六甲教会の中高生会が今まで行ってきた活動でした。今回の練成会に参加し私が一番知ったことは今の広島に住む人たちや広島を訪れる人たちがとても平和であることです。平和祈念公園から世界平和記念聖堂までの道のりを大勢の人と歌いながら歩くことで、その参加者の平和にたいする思いがとても伝わってきました。歌声をひとつにし、参加者みんながひとつになって平和記念聖堂にむかうこのプログラムはとても感動的でした。

今回は六甲教会からの参加者が少なく、中高生はひとりだけとなってしまい残念でしたが、他の教会の多くの学生と交わることができ、いつもとは異なる目線で平和について考える有意義な時間が過ごすことができたことをとても嬉しく思います。毎年あるイベントですので是非また参加することができ

ばと思います。同行して下さったリーダー、シスター古屋敷、どうもありがとうございました。

(中学生会リーダー)

今回の練成会では、広島以外の教会と合同で何かするといった、練成会では初めての経験でした。最初は、友達ができるか不安でしたが、広島についてみると初日はみんなぎこちなかったけど、二日目から全体的になじんできたようでした。

今回、「平和」をテーマに練成会に参加してみて、私のイメージとは違って少し驚きました。私は原爆資料館に行くと思い、気が重かったのですが、資料館には行かず平和行進というものに参加しました。平和行進というのはたくさんの教区から人があつまって、平和公園から平和記念聖堂への道のりを遠回りして 2km ほど歩くというものでした。私としては、初めて見るものだったので少し驚きましたが中でも驚いたのが、こうした動きに反対する人がいたということです。



練成会に参加して思ったことは、世界が平和になるためにはまず、平和行進に反対する人たちなどいろいろな思想の人々と和解をしなくてはならないと感じました。そして、広島ですごした日々を心にとめて、これからの日々をすごそうと思いました。

(中学2年生)



<行事報告>

∞∞∞∞∞ キャンプ報告 ∞∞∞∞∞

2010年8月6日(金)～9日(月)まで教会学校は兵庫県の兎野高原でキャンプをしてきました。去年は4日間すべて雨という最悪の天気でしたが、今年は4日間すべて晴れ(帰りのバスだけ小雨)という恵まれた天気でした。

今年のキャンプテーマは「今を創ろう」です。毎年、教会学校のキャンプはリーダーがプログラムを企画して子どもたちが参加するという形でした。今年は、企画の過程で子どもたちも参加し、皆でキャンプをつくりあげようと思い、このテーマにしました。また、子どもたちに今という時間が大切なんだということを伝えたいという気持ちもこめています。

皆でキャンプをつくるというテーマに沿って、班で自由に行動できる時間を増やしたところ、その時間には水鉄砲で遊んだり、池に入った子がいたり、子どもたちは自由にのびのびと遊んでいました。肝試しやオリエンテーリングでは、初めて顔を合わせたような班の仲間と助けあい、知恵を出しあっていました。きっとそんな経験を通して成長し、いろいろな発見があったと思います。

この4日間、教会でお祈りして下さった皆様、いいお天気にしてくれた神様に感謝します。いつもあたたかく見守って下さっている皆様、これからも教会学校をよろしくお願いします。

はじめてのキャンプ

キャンプはずし良かったよ!! テントでねるのは、あつかったです。

ママとはなれてすごさみしかった。でもかえったときは、ママがなかにいたからよかったよ!! ラッキーだったよ。

キャンプファイヤーはいろいろあったのしかったよ。わんにゃんおうこくのげきがたのしかったよ。

ごはんもおいしかった。おふろはきもちよかったよ!

はんは4はんだったよ。さとうひとみちゃんといっしょだったよ。よかったよ。ねるときもとなりにねたよ。

むしがわたしは、むちゃくちゃこわかったよ。

(1ねん)

キャンプにいったのしかたです。
ちょっとママにあいたくなかったけど、キャンプファイヤーがきれいだったです。
きもだめしはこわかったからいきませんでした。
スパゲッティーがおいしかったです。おやつのスーいかもおいしかったです。
らいねんもいきたいです。



(1ねん)

私のキャンプでの一番の思い出は、きもだめしです。いままでこわくてきもだめしに行けなかったけど、今回で最後なので勇気を出して行ってみました。最初のあべリーダーのお話はこわかったけど、きもだめしの方はあとから考えると半分こわくて、半分おもしろかったです。

もう一つ、班長になったのもいい思い出、けいけんです。なぜなら、責任感をもてるようになったからです。私の班の人は、みんなマイペースで集合する時に、「あと1人でみんなそろいなー。」と書いていたら、だれかが「あっ！！〇〇忘れた！！」と書いて、テントに物を取りに帰ってしまい、そしてそのこなかった人と物を取りに帰った人が帰ってくるの見えるところに、他のもう1人が「〇〇もいるのか？！」と書いて、またテントにもどってしまいます。というわけで、なかなか班の人がそろわないので班長の私がおこられます。なので、班長というのは、本当に、責任のある仕事なんだなあと考えたからです。

私たちが、4日間楽しくすごせたのは、たくさんの大人の方々のおかげだと思いました。ありがとうございました。

(6年)

ことは最後のキャンプだったので、とても楽しみにしていました。キャンプ中は班長でみんなをまとめる役だったので、たいへんだったけどおもしろくて楽しかったです。

1日目にとつぜんきもだめしがあったのでびっくりしました。

お食事もとても楽しくおいしく食べれたのでよかったです。いろいろなプログラムがとても楽しかったのでよかったです。

(6年)



<行事報告>

∞∞∞∞∞ 2010 年度平和旬間 “合同礼拝” ∞∞∞∞∞

8月8日午後1時半、恒例の平和旬間合同礼拝が六甲教会にて開催された。礼拝への参加者は、日本キリスト改革派・神港教会、神戸聖書教会、聖公会、近畿福音六甲ルーテル教会、そしてカトリック六甲教会の約七十数名であった。

はじめに発起人の挨拶があり、続いて神港教会のオルガニストによる前奏、そして参加者全員が起立し讃美歌534番「ほむべきかな」を歌った。とても耳に心地の良いメロディーと歌詞であり、参加者全員の意気が高揚した。その後、神港教会の長老である高島氏により祈祷が唱えられた。



今年度のメッセージはルーテル教会の松田牧師による「平和はわたしから」のテーマでお話を伺った。平和について松田牧師はご自身の幼少体験をもとに話された後、現代における平和、それは無関心こそ争いのもと、無関心は平和に繋がらない。無関心な現代にあって、真に平和を築けるのだろうか。人と人との絆をしっかりと育てていくには、無関心であってはいけないと強調された。

続いて神港教会と六甲教会混成チームによる“アシジの聖フランシスコの平和の祈り”と“救いへの

道”（主の教会は唯一つ）の歌が合唱された。頭をイエス・キリストとする同じキリスト者が、本当にいつの日か皆が一緒に食卓を囲む日が来ることを願いながら・・・そんな祈りを込めた聖歌であった。



最期に六甲教会の祝祷では「今年広島で行われた平和祈念式典において、バンキムン国連事務総長、アメリカのルース駐日大使をはじめ核保有国を含む七十四カ国の代表者の参加があったことは長年の祈願の賜物であった。しかし、一方で式典はもとより平和に関して無関心な人が増えている現代、もっと平和を意識してほしい。被爆された方々もやっとう重い腰を持ち上げ被爆体験を語りはじめたのである。この地球上における核戦争、

核実験など絶対にあってはいけない。その為には彼らの体験を後世に伝える必要がある。その為にキリスト者は、全世界に派遣されている」と。

被爆者の方々の貴重なメッセージに共感共有できる人の輪が、世界に向けて広がり続けるようにと皆で祈り、今年度の平和旬間合同礼拝を終了した。 自称“平和の使徒”



<行事報告>カトリック神戸地区宣教司牧評議会主催 カトリック神戸地区平和旬間行事

∞∞∞沢知恵 ピアノ弾語りコンサート『りゅうりえんれんの物語り』（8月14日）∞∞∞

『りゅうりえんれんの物語り』（茨木のり子さん作の長編詩）は、社会活動部の皆さんが事前に輪読会などを通じてアピールされていたのでその内容をご存知の方も多と思うが、簡単に言えば日本国民が他国民を蹂躪し加害者となった物語である。戦争は必然的に国家や国民を加害者にも被害者にもしてしまう。このような戦争が繰り返されることの無いようにという願いを込めて（演出の方法は別として）『りゅうりえんれんの物語り』が取り上げられたことは平和旬間行事の内容として適切であったと思う。演者の沢知恵さんは大島青松園（高松）でハンセン氏病を正しく理解してもらった活動の一環としてボランティアのコンサートをされておりこの点については敬意を評する。しかし、今回のコンサートに限って言えば営業色が前面に出すぎているように思う。コンサートの冒頭で司会者から案内があったように、『りゅうりえんれんの物語り』の余韻をかみしめ静かに会場を出ることができれば物語が一層心に響いたのではないかと思う。



<行事報告>

∞∞∞∞∞∞ 納涼の夕べ（8月21日） ∞∞∞∞∞∞



今年の「納涼の夕べ」の運営は一部の販売部門を地区が担当するという新しい試みで行われ、成功を収めました。またイベントも高齢者の「混声合唱団」から教会学校の子供たちや中高生会の少年少女や若者の歌や演奏があり、またその中を取り持つように女子大生の「落語」と、文字通り老若男女総出のバラエティに富んだ内容で盛り上がりました。

こうした老いも若きも一緒に集える行事は教会の活性化につながるのではないだろうか。また東ブロックの他の教会からもお越しいただき交流が出来たが、近隣の人たちの来場が少なかったのがこれからの課題であろう。



<行事報告>

∞∞∞∞∞∞ 片柳神父送別会 ∞∞∞∞∞∞

8月22日(日)10時ミサ後、イグナチオホールで片柳神父様(『やぎい』と親しみを込めて、私たちは呼ばせていただいていた)の送別会が行われました。イグナチオホールには、溢れんばかりの人！人！人！！2年半お世話になったやぎいに感謝を伝えたい、と大勢の人が集いました。



松村神父様の心温まるご挨拶、そして、川合議長の力強いメッセージの後、壮年会征木会長による、インドスタイルの乾杯で幕を開けた送別会。やぎいは、終始リラックスした様子で過ごされていました。途中、それぞれの部会から、寄せ書きやアルバムなど、素敵なプレゼントの贈呈。教会学校の子どもたちはプレゼントを渡した後、『やぎいと踊りたい〜！！』とおねだり♪キャンプで一緒に踊った思い出の体操を、舞台の上で披露しました。一番ノリノリの??やぎい。(笑)！！お上手でした！

そして、この送別会の目玉コーナー、『やぎい、秘蔵映像』の上映会が始まりました。普段はカメラを片手に、私たちのことばかりを撮影して下さっていたやぎいでしたが、実はこの日の為に、私たちはたくさん隠し撮りをしていたのです。子ども達へ祝福してくださっているやぎい。大好きなカメラを片手に幸せいっぱいなのやぎい。大自然の中で、たくさんのパワーをもらっているやぎい。そして、ヤギと一緒にのやぎい・・・どの写真もやぎいの温かいお人柄がよく伝わり、会場みなさんに、笑顔がこぼれました。

二年半という短い間でしたが、私たちがやぎいからいただい



たものは、数え切れないほどあります。教会内外に、やぎいが蒔いて下さった多くの種を、私たちはこれから力を合わせて育てていきます。世代を超え、部会を超え、教派を超え、大きな花を咲かせられるように・・・。

やぎいのこれからのますますのご活躍をお祈りしています。また六甲教会でお会いできることを楽しみに・・・。

最後に・・・送別会で歌われたやぎいソングをご紹介します。

大好きな片柳弘史神父様

(「大好きなマザーテレサ」の替え歌)

作詞☆こいずみゆり・むらたえみ

私たちの大好きな 片柳神父
愛の世界教えてくれた 片柳神父

休みの日にはカメラかつぎ、西へ東へ遊びまわる
やぎいのように 今日を生きたい
全ての時間 イエスと共に～♪

お元気で！！やぎい神父様 ☆



∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞ 各部だより ∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞

📖 三日月会

9月20日(月・祝)13:00~16:00 総会
会費 500円(当日徴収)

三日月会は六甲教会の中で信徒の親睦団体として30年以上の歴史があり、その数は500名に迫ろうとしています。しかし毎月の例会に出席できる方々は限られており、会員の割にも満たないのが現状です。総会には是非ご出席くださいますように。

📖 婦人会

9月3日(金)初金ミサ後

例会と季神父様の講演会

婦人会以外の皆様もご参加下さい。
昼食(カレー)を用意しています。

📖 青年会

9月12日(日)11:30 定例会
9月26日(日)11:30 定例会

※ 第5会議室にて
青年の方、どなたでもご参加下さい。

📖 教会学校

9月11日(土) 始業式
9月12日(日) 子どもと共に捧げるミサ
9月18日(土) 通常クラス
9月25日(土) 通常クラス

📖 社会活動部

9月3日(金)婦人会例会後 連絡会

《 お知らせ 》

★社会活動部より★

9月1日(水)10:00 手芸の集い
9月16日(木) ベタニアの集い
9月19日(日) ミニバザー

★養成部より★

9月25日(土)/26日(日) 13:30~16:00

旧約聖書講演会「申命記」その2

講師：雨宮 慧神父(上智大学教授)



エコキャップ報告

7月20日、エコキャップ推進協会へ3度目の送付を行ないました。数量は35.5Kg(14,200個)。ワクチン17.8人分購入と156KgのCO2削減ができました。皆様のご協力に感謝致します。

今後もエコキャップを『世界の恵まれない子供達』と『CO2削減』のために集めて参ります。

次の2点にご留意頂き、ご協力お願い致します。

- 1) 材質はPP(ポリプロピレン)。金属のキャップ、缶ビールのフタは集めておりません。
- 2) 汚れているものは洗って、水分を拭取り、ご持参ください。

キャップはイグナチオホールに備えてありますカゴ、またはゴミ置き場横の階段下にありますコンテナへお入れ下さい。宜しくお願い致します。(教会学校)

📖 図書紹介

2010年9月19日、イギリスのバーミンガムのコフトン・パークで、ジョン・ヘンリー・ニューマン枢機卿の列福式が、ベネディクト16世教皇によって司式される予定である。この機会に、現代のアウグスティヌスと言われるニューマン枢機卿について知るのも良いのではないかと思う。

彼は1801年2月21日、銀行家である英国国教徒の息子として、ロンドンに生まれた。1824年、英国国教会の司祭に叙階される。その後、初代教会の教父たちの研究に打ち込んで強い影響を受け、1833年7月のオックスフォード運動を始める。この運動は英国国教会に大きな影響をあたえた。1845年10月9日、リトルモアで、バルベリ神父の手でカトリック教会に迎え入れられる。後に、ローマのプロパガンダ大学で学んで、カトリック司祭となる。

ニューマン枢機卿は第二バチカン公会議の考え方を先取りしたような人物であり、特に「教義に関して信徒に聞く」は信徒とは何かという意義を述べたもので、信徒の知的成長をカトリック教会に対して促したと言える。教会を構成している生き生きとして教育のある信徒の存在が、カトリック教会の概念と神学にとって根本的必要事であるという考えが影響を与えた。

以下に邦訳された著作と彼についての研究書を挙げる。

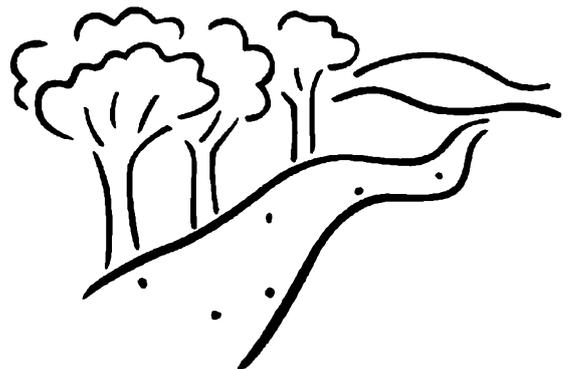
<著作>

『アポロギ』上・下	巽 豊彦訳	エンデルレ書店	
『損と得』	中村 巳喜人訳	ドンボスコ社	
『ケロンシアスの夢』	内館 忠蔵訳	日本聖公会出版	
『わが生涯の弁』(抄)	川田 周雄訳(現代キリスト教思想 書3)		白水社
『心が心に語りかける』(ニューマン説教集)		日本ニューマン協会訳	サンポウロ
『大学の理念』	増野 正衛訳	弘文堂	
『大学で何を学ぶか』	田中 秀人訳	大修館書店	

<研究書>

『ニューマン』	石田 憲次著	研究社英米文学評伝 書47	
『ニューマン』	チャドウィック・オウエン著	川中 なほ子訳	教文館
『教会とアウトサイダー』	ウィルソン・コリン著	中村 保男訳	河出書房新社
『日本におけるニューマンの受容』	長倉 禮子著		荒竹書店
『J・H・ニューマンの現代性を探る』	岡村 祥子・川中 なほ子編		南窓社
『キリストを生きる』ニューマンの神学と霊性	イアン・カー著	川中なほ子・橋本美知子訳	
*『時の流れを越えてーJ・Hニューマンを学ぶ』		日本ニューマン協会編	教文社

全くニューマンについて知らない方には*『時の流れを越えて』を薦める。私が、受洗間もない頃に「アポロギア」と「損と得」を読んだ。これらの本しかまだなかったのだが、受洗したての信者として非常に強い感銘を受けた。





喜びの家・真理庵の郷にて

京都府丹後半島の北端にある“真理庵の郷”へ、毎月二泊三日のスケジュールでここ六甲のかつての“つわもの五人”は出かけていく。先月 27、28、29 日もいつもと同じメンバーで出かけていった。そこに好奇心旺盛な二人の“弥次さんと喜多さん”は、彼らの後を追って次の日に出かけた。京丹后市まで約三時間の道のりである。真夏の太陽の照りつける中、車は最終目的地まで無事に着くかと思いきや、予想通り道に迷ってしまった。迎える車を待つこと 10 分、ようやく目的地にたどり着く。山また山の谷間と聞いてはいたが、想像を遥かに超えた山奥であった。

山間の傾斜地に“真理庵の郷”はある。かつて二十数件の村があったが、数十年前にあまりにも不便であることから山を降り、移転したとの事。その跡地をカトリック信者の方が購入し、現在、大阪教区の R. 神父がこの村の村長として居住している。といっても彼の仕事は、この郷を訪れる人の“心のケアと祈り”を中心に様々なボランティア活動を幅広く行っている。

この郷での生活は、“祈り&労働”という観想修道生活に似ている。この雰囲気にも六甲の“つわもの五人”も魅了されたのであろう。“弥次さんと喜多さん”は、彼らが毎月必ず通う“真理庵の郷”への想いを納得した。しかし、彼らはボンヤリ二泊三日を過ごしているわけではない。キッチリとすごい仕事をしている。



普通の人では出来ない高度な専門職をボランティアとして奉仕する。郷の屋根の修理、壁の修理と塗り替え、ベランダの修理とペンキ塗り、室内の修理と清掃、畑仕事と灌漑土木工事等など、何でも積極的に喜びを持って奉仕する。傍で見ていた“弥次さんと喜多さん”は、彼らの働きぶりに本当に“びっくり仰天”すると同時に、感動させられた。更に、夜になって夕食の時間、彼らは「男の料理教室」で鍛えた自慢の腕をふるい、皆のお腹を十二分に満足させたのである。



最後の日、R 神父のミサでは、“つわもの五人”と“弥次さんと喜多さん”は、いつもと違った真に素直な子どものような心で“み言葉”を身体一杯に染みとおらせ、身も心も洗われる素晴らしいミサに与った。その喜びは記念の写真からも伺える。

神に感謝！

満腹した“喜多さん”

~~~~10月30日(土)「宣教を考える会」第2弾~~~~

宣教部では、この春「宣教を考える会」を開催しました。反省会の結果もっと多くの方々に参加していただいて、「宣教」に対する基本的な考え方を共有しようということになりました。「宣教」というと「活動」に結び付けて、「そんな時間が取れない」とか「そんな能力が無い」などと拒否するのではなく、自分の信仰を見つめなおし、神から愛されている実感を分かち合いたいと思います。10月30日は教会のすべての施設をこの黙想会に使います。どうぞ、自分の信仰を見つめなおす「教会の黙想会」として参加して下さい。

詳細や参加申し込みの募集は9月26日から行います。お楽しみに！！

~~~~~

日時：10月30日10:00~16:00

対象者：六甲教会の信徒の皆さま

プログラム：お話、祈り、話し合い、ミサ

申込方法：聖堂前のチラシで申し込んで下さい。

会費(当日)：500円/一人(昼食代を含む)



♪♪ パイプオルガンお披露目「感謝コンサート」 ♪♪



日本基督教団東梅田教会からカトリック六甲教会に
40年の時代を経たパイプオルガンがやってきた！！

9月4日(土)15:00~16:30
カトリック六甲教会 主聖堂

演奏 ●オルガン独奏

久保田 清二

(日本基督教団東梅田教会 主任オルガニスト)

三浦 優子

(カトリック六甲教会 主任オルガニスト)

●独唱 浅野 純加

●合唱 カトリック六甲教会有志合唱団

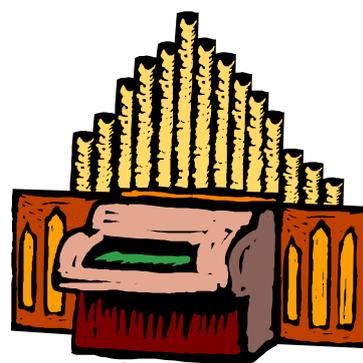
曲目：バッハ作曲

小フーガ ト短調

メンデルスゾーン作曲 プレリュードフーガ 第1番

モーツァルト作曲 モテット「喜び踊れ」よりハレルヤ

バッハ作曲 「主よ、人の望みの喜びを」 など



広報部員のつぶやき

今年の夏はことのほか暑いものでしたが、教会は活発に活動していたのですね。いつもより多いページ数の教会報となりました。教会学校のキャンプの感想が可愛らしく、そんなに怖いあべリーダーのお話を聞きたく思いました。

そして9月に入るとすぐに片柳神父様とのお別れです。次のステップのための旅立ちではありますが、寂しいことには変わりありません(´`´) 充実した修練期間を過ごされ、更にパワーアップされたやぎい神父様にお目にかかれる日を楽しみに、お祈りしています。 ★♡

教会報 10月号の発行は10月3日(日)です。

編集会議は9月26日(日)です。

記事原稿は、9月19日(日)正午までに
信徒会館受付へご提出願います。(広報部)

<http://www.rokko-catholic.jp>

カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会

〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21

電 話 078-851-2846

発行責任者 松 村 信 也

編 集 広 報 部